



公益社団法人 沖縄県理学療法士協会

THE KOHO



12月

Vol. 12.2013.

通巻 No. 336

第 263 号

巻頭言

「金～拡」

毎年、年の瀬に行われる今年の漢字の募集が始まりました。これは今年の1年を漢字一文字で表すもので、去年は、「金」に関する天文現象が多くありました。932年ぶりに観測された金環日食、21世紀最後となる金星の太陽面通過、金星食の観測などです。また、世界一の自立式電波塔として、金字塔を打ち立てた東京スカイツリー開業。ロンドンオリンピックで、金メダルを筆頭に日本史上最多の38個のメダルを獲得。レスリング吉田選手が国民栄誉賞を受賞したときに贈呈された「金色の真珠ネックレス」などなど。医療では、iPS細胞の研究で、山中教授が金メダルに等しいノーベル賞を受賞したことが話題となりました。また、「金(かね)」をめぐる詐欺事件、生活保護費の不正受給問題、財政問題。東日本大震災の復興予算の用途をめぐる問題などによって決定されたとあります。今年の漢字は何になるのか予想すると面白いかもしれません。ちなみに今年の(公社)沖縄県理学療法士協会を漢字で表すとしたら、学術大会参加人数過去最多、離島ブロック開催の諸企画最多、臨床理学療法研究会の発足、参議院選挙の同志当選など、活動拡大の「拡」といったところでしょうか。皆様も今年1年を振り返って、良い年を迎えましょう。

地域・厚生担当理事 立津 統



INDEX

巻頭言P1	八重山リハビリテーション勉強会 P8
第15回沖縄県理学療法学会P2・3	理事会報告 P8
平成25年度優秀賞表彰式 P4・5	事務局便り P8・9
JICA国際協力・交流フェスティバル P5	教育学術局便り P9・10
第3回沖縄理学療法講習会P5	沖縄県理学療法士協会主催研修 P10・11
倫理担当研修会P6	他団体研修案内 P11～13
第22回沖縄呼吸ケアセミナーP6	広報部便り P13
コラム4 P7		

発行:公益社団法人 沖縄県理学療法士協会 事務所
 〒904-0032 沖縄県沖縄市諸見里1丁目4号22番301号 TEL&FAX:098-930-5023
 URL <http://www.oki-pt.jp/> E-mail: optaoffice@oki-pt.jp



第15回沖縄県理学療法学会



開会式

平成25年11月10日、「理学療法と周辺科学」を大会テーマに、第15回沖縄県理学療法学会が琉球リハビリテーション学院にて開催されました。基調講演やポスター・口述発表でも、教室からあふれるほどの参加者が集まり、賑やかな大会となりました。昨年からはじめていたワークショップは、実際の治療場面を発表する形態であり、参加者にとって貴重な機会となりました。また、自主ワークショップでは参加者自身が治療手技を体験する新しい取り組みが行われ、多くの参加者が集まりました。今大会を通して、解剖学と心理学への理解も大切である事を再認識する事が出来ました。理学療法の専門性に加えて新たな気づきを得られる場になったと実感しました。(取材：宮里・国場・宮城・仲吉)

大会長インタビュー

第15回沖縄県理学療法士学会大会と那嶺司大会長にインタビュー。今大会の企画・開催に尽力なさり、大変お忙しい中インタビューに答えてくれました。取材：宮里（広報部）

Q. 学会大会を終えて率直な感想を聞かせてください。

A. 金武で開催したのにもかかわらず、早朝の受付の時点で会員が210名、学生さんが200名と多くの方が朝から参加していただけてありがたかったです。最終的にはゲストとして招待したアメリカ人やフランス人の医療関係者15名を含め、合計583名となり県外からの講師を呼ばなくても、例年と変わらない会員を集められることがわかったので、ホッとしています。

Q. 大会スケジュールを振り返っていかがでしたか？

石田先生の基調講演は面白かったと思います。溝田先生が座長をしていただいたおかげで活発な質疑応答がなされ、より良い意見交換ができていたと思います。古川先生の基調講演2も多くの会員がきていただけました。基調講演で解剖学と心理学を選んだのは、一度は学校で学んだことがあり関心が高いものであったため、今回はこのような形になりました。今後は工学や理学などの関連領域を取り上げていければより充実したものになるかと思っています。特別講演で「米国における小児理学療法の進化」テリー・ウォターマンさんの特別講演は海外の臨床や法制度上の違いなどを知っていただく良い機会になりました。小児理学療法関係者の方にも好評だったと聞いております。

Q. 最後に会員へメッセージを

A. 今回も多くの会員に来ていただいたワークショップは、今後「実技発表」などの名称に変えて、一つの発表形態として沖縄県学会の特色になっていってほしいと思っています。シンポジウムも、より議論を深めたいテーマを、取り上げる一つの討論の場として定着して欲しいです。これらの発表形式を利用して、自己の臨床を発表したり、テーマを挙げて討論する場として、今後是非、活用していただきたい。

大会のテーマである「理学療法と周辺科学」、いわゆる理学療法関連領域は、これまでも多かれ少なかれ、我々理学療法士に影響を与えています。我々はそれを受け入れ、さらに研鑽していくことで充実した理学療法を作っていくのではないかと思います。工学や理学、社会学など周辺科学に関心を持ち、積極的に連携を取り合えるようになれば、理学療法はより社会に貢献できるものになると思います。



与那嶺 司 大会長

発表者インタビュー



研究テーマ「膝伸展可動域と骨盤アライメントの関係性について」口述発表を終えた、ロクト整形J2所属の小坂祥範会員をインタビューしました。取材：宮里（広報部）

Q. 口述発表を終えてのご感想をきかせてください。

A. 色々ご質問をいただいていい勉強になりました。

Q. 準備や発表で工夫されたことはありますか？

発表内容が複雑だったのでより伝えやすいようにシナリオづくりに専念し取り組みました。

Q. 今後の課題はありますか？

今年で膝の研究を3報目発表させていただきました。今後もより内容を深めてさらに良い研究発表をしていきたいと思っています。



「片麻痺性片頭痛の理学療法を経験して」ポスター

浦添総合病院リハビリテーション部 根間明須加

Q. 発表を終えてどうでしたか？

A. 達成感と充実感であふれています。大会を迎えるにあたり協力してくれたスタッフの皆さんに感謝の気持ちでいっぱいです。

Q. 研究するきっかけは？

A. 担当症例が、治療報告の少ない疾患であった事と、院内学術部の推薦もあり報告させていただきました。

Q. 今回学んだ事、または今後の課題はありますか？

A. 理学療法を行う上で病態メカニズムの原点を振り返る事の大切さを学びました。

「下肢筋群の柔軟性低下が及ぼす腰椎骨盤リズムへの影響について—簡易評価方法からの考察—」ポスター
医療法人タピック 宮里病院 山城夏奈子

Q. 発表を終えてどうでしたか？

A. 多くのご意見をいただき私自身の視野も広がりました。

Q. 研究するきっかけは？

A. 臨床で腰痛の患者の中に腰椎が過剰に動いている方が多い印象があり、客観的に腰椎・骨盤リズムの割合を知ることができればと思ったからです。

Q. 今後の課題はありますか？

A. 今後は更なる簡易的評価方法からの客観的指標を検討し、腰椎骨盤リズムへの影響について研究の幅を深めていきたいです。



参加者ハインタビュー

石川絢賀 (大浜第一病院 理学療法士一年目)

取材：宮城 (広報部)

Q. 参加した目的は何ですか？

現在、臨床で先輩セラピストがどのようなことに取り組んでいるのか、また同期の活動を見て自分の今後のやる気につながればいいなと思い参加しました。

Q. 参加してみてどう感じましたか？

いろいろな分野の発表があり、まだまだ知らないことが多いと感じました。

Q. 参加してみて気持ちの変化はありましたか？

自分自身、普段疑問に思うことなどを発表していただけたらいいなと思いました。



スナップ写真

西平伸也 実行委員長



平成25年度沖縄県理学療法士協会 優秀賞 表彰式

平成25年度沖縄県理学療法士協会優秀賞の表彰式が第15回沖縄県理学療法学会内で行われ、平田晃己氏（沖縄県立八重山病院）と武村奈美氏（沖縄リハビリテーションセンター病院）が受賞されました。今回は第47回日本理学療法学会、第34回九州理学療法士・作業療法士合同学会から15演題を優秀賞候補としてノミネートし、10名の審査委員の先生方に厳正なる審査をしていただきました。審査の結果、平田晃己さんと武村奈美さんが選出されました。

選出理由として平田晃己さんは、第34回九州理学療法士・作業療法士合同学会において「離島における訪問リハビリテーション」を発表され、「極めて限られた資源しか利用できない離島におけるリハビリテーションの意義について示唆深い調査報告といえ、当県離島の11年間に渡る訪問リハについて検証し特殊な実情を明らかにした点を高く評価する。今後の離島における訪問リハ（理学療法）のあり方、役割につながるものと期待する。」というものでした。そして武村奈美会員の選出理由は、第47回日本理学療法学会において「脳卒中片麻痺患者の最大歩行速度の推移とその規定因子に関する検討」を発表され、「この研究の価値は、これまで横断研究がほとんどであった脳卒中片麻痺患者の最大歩行速度を規定する因子の研究を前向きに連続調査した点である。本研究によって、慢性期脳卒中片麻痺患者の歩行速度に、運動機能以外の他の因子が影響している可能性を示した点は興味深い。」また、「脳卒中の(最大)歩行速度を規定する要因を病期に着目したことは新奇性があり高く評価する。また脳卒中患者の歩行速度に対する理学療法の介入方法につながることを期待できる。」等が挙げられておりました。今回受賞されたお2人にお話を伺い、表彰式の際の挨拶を添えて紹介します。（取材：国場、平、橋爪）

Q.離島の訪問リハについて

A.波照間島への月1回の訪問リハで何ができるのか自問自答することが多かった。しかし、島民の方々は心暖かく迎えてくれて、疎外感を少しでも和らげられるように関わることができた。波照間島は全家屋の3/4が浴室、トイレが屋外にある造りとなっている。島民の高齢化も進み、介護保険適応者も増えているもののサービスを利用する場所がなく、住宅改修なども退院前訪問や改修業者が来ることも難しい状況がある中で、訪問時にはあらゆる問題に対応できるように、大工道具やいろんな器材を持ちこんで行ったが、住宅改修など大掛かりなものは地元の大工さんへお願いすることもあり、島でできることを最大限に活かしていった。

Q.今後の課題として

A.波照間島に限らず小さな離島では人材、施設サービスが不十分な状況でもいつまでも島で過ごしたいと思う島民は多い。沖縄県PT県士会が公益社団法人となったことで、離島も含めた県民へのサービス提供、リハビリテーションをみんなで考えて頂きたい。また、本島にいる多くのPTへ是非、離島に来て頂きたいと語っていた。離島でのリハは島民との協力はもちろんのこと、島に馴染むのと同時に保健師や本島の病院、施設との連携も重要となってくる。今後はインターネットなどで予防体操や住宅の状況など随時相談できるようにしていきたいが、まだ環境整備が不十分な状況である。現在、平田さんは竹富島や与那国島など訪問リハが行き届かない島にもボランティア活動を行い勢力的に活動されている。

【受賞コメント】

今回の受賞はとても思いがけないことでした。この賞は、波照間島に関わってきた過去10年間の実績であり、また病院全体の賞であると思っています。社会資源が乏しく、同じ沖縄でもリハビリを行えない現状があることを皆さんに知って頂きたいと思っています。一個人として関わるだけでなく、公益社団法人として社会に貢献していけたらと思っています。今後も離島の医療・福祉の充実を望んでおります。ありがとうございました。



平田晃己会員と池城会長



武村奈美会員

Q.今回の研究のきっかけは？

A.数年前から北里大学とCVA患者様の実用歩行に関する研究を進めていました。現在も実用歩行の獲得に必要な要素を色々な視点から検討しているところです。

Q.大変だったことは？

A.データ収集です。データ収集は病院全体で取り組んでいたのですが、日々の忙しい業務の中にもしっかりとCVA患者様の定期的な評価を定着させていくことに苦労しました。

Q.日本理学療法学会での発表の手応えは？

A.今まで取り組んできたことを一つの成果として発表できたことは良かったと思います。よりCVA患者様の評価の信頼性を高めて、より良い研究を行いたいと思います。

Q.研究を行う前と後で臨床での変化はありましたか？

A.評価結果をもとに自分の治療を見直したり、患者様へフィードバックしたりすることをより意識するようになりました。

【受賞コメント】

この度はこのような賞を頂き、身に余る思いです。研究にご協力いただいた北里大学の先生方や仲西部長、一緒にCVAチームを盛り上げてくれているメンバー、患者様のために日々、評価・治療に取り組んでいる仲間の協力・努力の結果だという思いで、受け止めさせていただきます。本来なら式へ参加するべきではありますが、私用によりかなわず申し訳なく存じます。今回の受賞を励みに更に研鑽していきたいと思っております。誠にありがとうございました。

【池城会長からのコメント】

今回は15演題の中から2名が選出されました。これは大変よろこばしいこととあります。今回の受賞は研究や地域活動など多岐にわたる場面での活躍となっており、今後も沖縄理学療法士協会員の模範となるものと願っております。この度は、本当におめでとうございました。

JICA国際協力・交流フェスティバル

平成25年11月9日、10日に沖縄県国際交流・人材育成財団主催の「国際協力・交流フェスティバル」がJICA沖縄国際センターにて行われました。沖縄県理学療法士協会も理学療法士協会の役割と海外活動紹介をテーマに出展していました。出展ブースでは海外で活躍した理学療法士を写真やパネルで紹介し、またホースを使った自助具を作成するコーナーなどが設けられていました。

フェスティバル自体は過去最高となる5936名の来場者となったようです。沖縄県理学療法士協会の活動を県内、海外の方にも大きくアピールできた場になったと思います。



第3回沖縄理学療法講習会

『脳卒中患者に対する機能的運動課題達成のための治療戦略』

平成25年10月27日に嘉手納町中央公民館で、第3回沖縄理学療法講習会が行われました。

講師は潮見泰藏氏（杏林大学大学院保健学研究科リハビリテーション科学分野）、テーマは『脳卒中患者に対する機能的運動課題達成のための治療戦略』でした。会場には、約200名の参加者が集まりました。講習会では、はじめに脳卒中リハビリテーションの考え方がどのように変化し、現在はどう考えられているか、また、正常の運動制御理論を元に、脳卒中患者では異常といわれる運動がなぜ起こるか、その中で理学療法士が介入する目的は何なのかをご教授頂きました。そして、治療を進めていく上での目標設定、運動課題の条件、運動学習の進め方などを学ぶ事が出来ました。

今回は脳卒中に着目した講習会ではありましたが、様々な疾患に対する治療の考え方としても参考になる部分があったのではないかと感じました。（取材：仲吉）

【参加者の感想】上地章仁（おもろまちメディカルセンター）

講師の潮見先生の講演会は聞きやすく解りやすかったです。講演会の中で初めて聞く評価法や運動行動の様々なシステムや理論、それに基づいた治療展開など大変興味深く楽しい講習会でした。講習会にて患者様に合わせた機能的運動課題の設定、治療内容の工夫など今後の臨床で患者様の評価・治療に参考になると思えました。また脳卒中患者様のみならず整形の患者様にも考え次第では応用できるのではないかと感じました。今後は講習会で学んだ内容を復習し、さらなる知識・技術向上を目指し障害で苦勞されている患者様のお役に立てるよう日々精進していきたいと思っております。



倫理担当研修会 日本理学療法士協会主催

(公社) 沖縄県理学療法士協会 副会長・倫理委員会委員長 神谷之美

11月2日の午後から日本理学療法士協会主催の『倫理担当者研修会』へ参加してきました。

各士会の倫理担当者が集まったの研修会は例年テーマを決め1回程度開催されています。

今年はテーマ『職能倫理を求めて』。講師に接遇トレーナーの雨宮恵美氏を招聘して半日の日程で開催されました。雨宮氏から「何故今医療界に接遇が必要か」などの講義から、実際の患者やその家族への対応場面をロールプレイングする練習が行われました。正直、私を含め、40～50代の各士会の倫理担当者がはみかみながら「お辞儀」の練習をしたり「名刺交換」の実践をしたりする現場はちょっといつもの協会主催研修会では感じない空気感がありました。

接遇の研修としては、多くの病院や施設を担当してきた雨宮氏なので非常に解りやすく、中味の濃い内容ではあったが、個人的には以前、受講した事もあり、特に目新しい内容ではありませんでした。

参加していた他士会の担当者との意見交換においても、接遇はある程度の規模の病院・施設では職員研修の必須項目として実施されている内容なので、協会主催の倫理研修の内容としてはどうか？という意見も聞かれました。実際の場面を想定してのロールプレイングにおいては、実際の患者様とやりとりを行う中で、やはり敬語の使い方が不慣れな印象を受けました。雨宮氏によれば、リハスタッフは、『声が元気』『行動に活気があってよい』等の好印象を持たれる反面、『目上の患者に対してもタメ口を使う』『落ち着きがない』等の苦情も聞かれ、一社会人として、対象者の年齢や場面に応じた臨機応変な言葉使い、態度を養う必要性があると感じました。

接遇に関しては、士会の倫理担当者が担うというよりも、社会人として当たり前のマナーであり、それをスタッフに身に付けさせる事は、人材育成の一環であり、就職先の経営陣の当然の責務であると位置づけ、リハ部門の管理者が積極的に施設管理者へ訴えていく必要があると思います。

個人的には、研修前の倫理委員会委員長が挨拶の中で触れた近年の処罰委員会にかかった事案への詳細な説明とそれらにどう対応していくのか？予防策は？等をディスカッションして欲しかったと思っています。

県内も1,300余名の会員を抱え、病院・施設に留まらず、地域、行政の分野にも理学療法士の活躍の場は広がっています。各々のフィールドで受け入れられ、専門家として活躍するベースとして「倫理観」は必要な観念です。倫理担当者として、県内の理学療法士が社会人としての倫理観と専門職としての技術の両方を兼ね備え、各分野で必要不可欠な人材になる手助けが出来るよう、今後県内でどのような倫理研修会が求められているか検討していきたいと思っています。ご協力宜しくお願いします。

最後に、写真も添付する予定でしたが、おじさんおばさん達が照れながらお辞儀の練習をしている風景は気軽に写真を撮る雰囲気ではありませんでした。ご容赦ください。

第22回沖縄呼吸ケアセミナー



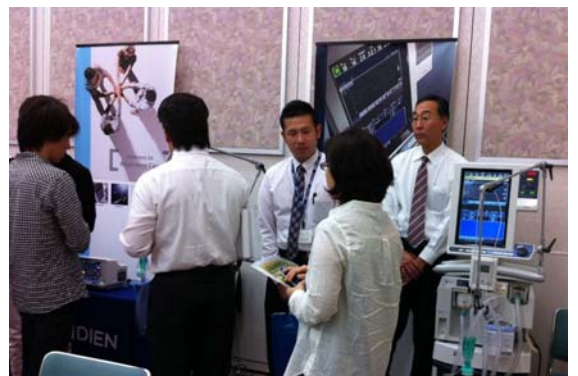
平成25年11月9日に沖縄産業支援センターで行われた、第22回沖縄呼吸ケアセミナーに参加させて頂きました。今回のセミナーは理学療法士、看護師、臨床工学技士の約180名の参加がありました。

講習会はアカデミックな内容に加え、臨床ですぐに実施できる人工呼吸器トラブル時の対応の方法や口腔ケアについて、血液ガス検査結果の読み方など患者さんの急変時の対応やその予防について学ぶ事が出来ました。

私たち理学療法士の呼吸器疾患患者さんへの関わりとして、呼吸介助や咳嗽・排痰の促しなど、主に筋や骨格を通じての影響

を与える事が目的となります。しかし、理学療法士が血液ガスやモニターの読み方を知っている、多職種の方々と密に専門的な話が出来る事で患者さんの病態への理解や運動の幅が広がると思いました。

近年、呼吸器疾患の患者さんに関わっている理学療法士は少なくなっていると思います。知見を広げる意味でも今回のようなセミナー、講習会に参加して、日本理学療法士協会の認定理学療法士や3学会合同呼吸療法認定士など、認定資格の取得を目指してみたいかがでしょうか。(広報部：池間)



Column-4



こんにちは。6月号より2か月に1度、水泳コラムを掲載させて頂いています沖縄県立南部医療センター・こども医療センター理学療法士の喜瀬真雄（きせしんゆう）です。

第4回目の今回は、障害者水泳の①組織②対象③選手の育成過程④ルール⑤理学療法士の役割をお話ししていこうと思います。（先月の水泳教室の様子もお伝えする予定でした

が、教室が延期となりましたので今後掲載していく予定です。申し訳ありません。）

さて、①障害者水泳の組織は、一般社団法人 日本身体障がい者水泳連盟です。目的は、「障害者の水泳・水中運動及び水泳競技の普及・発展事業からパラリンピックアスリートによる社会貢献活動」まで幅広く、国の外郭団体である（公財）日本障害者スポーツ協会や日本パラリンピック委員会の加盟団体というのが大きな特徴です。②対象は一般障害者スイマーからパラリンピック候補のトップスイマーまで含まれます。③選手の育成は育成・強化指定制度があり、年齢や実力に応じ合宿参加や国際大会での補助を受けられます。④ルールは大まかに健常の水泳連盟であるFINA（国際水泳連盟）のルールを障害者に適応させたIPC swimming（国際パラリンピック委員会水泳部門）のルールを基本にしています。例えば、平泳ぎは両手タッチでのゴールが基本ですが、前腕切断の選手には不可能です。このような場合に泳法違反とならないよう例外を設けているなどです。つまり、健常者の「競泳」ルールを障害者に適応させているだけです。⑤理学療法士の役割については、大まかに「クラス分け委員としての医療技術員」と「トレーナー」の2つがあります。クラス分けとは、「性別、年齢や体重の違いによって、さらに障害によって競技能力（運動能力）は当然違ってくるため、同じ競技能力同士で競技を行う」ために選手の階級を分けることです。（健常者でも柔道は体重別・男女別であることやバレーボールでの中学生と高校生ではネットの高さを変えている事と同じような意味あいです。障害者水泳でも下腿切断と大腿切断が同じレースに出るのはフェアじゃないことは感覚的に分かると思います。）IPC swimmingではクラス分けを担当する医療技術員の資格を医師と理学療法士に限っていますので、これはPTの大きな役割の一つです。もう一つはトレーナーの役割です。この話は少し長くなりますので、次の機会に出来ればと思います。①から⑤まで説明してきましたが、正確な解釈や情報は以下のURLを参照して下さい（あくまでわかりやすさを優先させた大まかな説明です。誤解があると関係者に迷惑がかかりますので、くれぐれもURLをご参照下さい）。

ここまででは一般論でした。せっかくのコラムですので、障害者水泳をはじめ障害者スポーツ全般に対する私のPTとしての考えを紹介しようと思います。あくまで個人的な考えです。臨床で診る患者さんにとって、障害者スポーツはICFで言うparticipationに当てはまると思っています。Participationはbody functions&structuresやactivitiesと相対的独立性の一面もありますので、膝が伸びなくて（body functions&structures）、歩行できなくても（activities）、車いすを自走できれば買い物に行ける（Participation）わけです。これを障害者スポーツに当てはめると、重度の片麻痺患者で「廃用手」と言われている手で（body functions&structures）、スプーンを「掴む」ことはできなくても（activities）、選手であればその手で世界を「掴む」ことが出来る（Participation）かもしれません。（実際に選手の数は健常者競技より少ないですし、日本代表や世界一がより身近にあります。例が日本代表でしたが、どのレベルでも当然様々な価値があります。）このように考えると、私はPTとして障害者スポーツの存在を知り患者さんに教えることで、「患者さん」の可能性を少し引き出すことが出来るのではと感じています。PTの勉強会ではしばしば「明日の臨床で役立つ内容です」という言葉を聞きますが、障害者スポーツを知ることは「明後日の臨床に役立つ」というのが私の印象です。

このコラムは来年6月に初めて沖縄県で開催される九州身体障害者水泳選手権大会への参加選手発掘も目的の一つです。皆様が臨床で診ている患者さんの中に水泳に興味がある方または勧めたい方がいましたら下記E-mailアドレスまでご連絡頂けたら幸いです。



「車いすでもスポーツできるよ」というPTの言葉で車いす競技を始めた廣道純選手（水泳ではなく陸上競技のロンドンパラリンピック日本代表です）

詳しくは以下のホームページを参照下さい。IPC swimming www.paralympic.org/Swimming
日本身体障害者水泳連盟 paraswim.jp 九州身体障害者水泳連盟 www.geocities.jp/kyushu_syougai/

お問い合わせ：E-mail:sea9518@yahoo.co.jp（喜瀬 真雄）

「車椅子選定とシーティングの基本及び、稲原先生のお奨めの車椅子&グッズ紹介」



講師：稲原 健輔 先生（京都医健専門学校）

今回、「車椅子選定とシーティングの基本及び、稲原先生のお奨めの車椅子&グッズ紹介」をテーマとして稲原健輔先生を講師に迎えた勉強会に参加しました。教科書的な座位姿勢と安楽姿勢は違うこと、安楽な姿勢を得るために人はどういった戦略をとっているのか、を再認識させていただきました。また最新の車椅子やクッション等関連グッズを紹介していただきました。なかなか八重山地区では、そのような情報を得ることが難しく、PTだけでなく参加していた福祉用具業者さんにとっても興味深かったものと思います。当院の車椅子は、みな古くタユミもたっぷりあり、モジュールタイプでなく個々にあわせて

調整することが難しい、稲原先生いわく「古くて趣きのある」車椅子ばかり。そんな車椅子に対して、三角ウレタンを入れるなど、現場で実践できそうな調整法をご提示くださいました。車椅子に求められる「安定性」と「機能性」、われわれが何を求めて車椅子姿勢を提案していくか改めて考える機会を与えていただきました。勉強会を通して稲原先生の軽妙トークと熱い思いが伝わり、時間があっという間に過ぎました。勉強会で得たものを現場で活かしていきたいです。感想：平田 晃己（沖縄県立八重山病院）



理事会報告

[平成25年度第8回 理事会] ☆詳細については当会ホームページを参照してください。

日 時：平成25年11月12日（火） 19:00～21:30

場 所：翔南病院 会議室 （〒904-0034沖縄県沖縄市山内3-14-28）

第1号議案 入会の承認に関する件（事務局）

議案内容	【入会申請者】 申請用紙からの申請…0件 ②HPからの申請…2件 計2件	
	【会員動向】平成25年11月12日現在 会員数：1334名 施設所属会員数：1217名 自宅会員数117名 会員所属施設数：233施設	
審議結果	[期間会員動向]平成25年10月10日～11月12日※協会承認済 異動：13名（県内：8名 転入：3名 転出：2名） 休会：1名 退会：1名 復会：0名	
	全会一致で可 担当局：事務局	担当部：総務部

[報告事項]

1. 会長 ※月次活動報告
2. 副会長 ※月次活動報告
3. 事務局 ※月次活動報告
H25 10/10～H25 11/12までの収受文書・発行文書表
4. 社会職能局 ※月次活動報告
・JICA国際協力・交流フェスティバル2013
石垣市健康福祉まつり
5. 教育学術局 ※月次活動報告
・第1回沖縄県理学療法研究会
・第3回沖縄理学療法講習会
6. 各種委員会 [倫理委員会]・倫理担当者研修会

事務局便り

■■要注意■■異動申請 お手続きをお願いします！

勤務先、自宅、氏名など会員情報が変更になった際は、速やかに会員情報の変更申請をお願いします。お手続きは「マイページ」から、お早めにお問い合わせいたします。

会費納入について

※楽天カードへ入会していないと会費の引き落としができません。楽天カードの申込みを再度ご確認ください。

楽天カードによるクレジット決済か口座振替となっております。両方に登録のない方へは協会本部よりコンビニ振込用紙が送付されています。支払期限を確認のうえ速やかに納入して下さい。領収書が必要な方は直接日本理学療法士協会 (FAX:03-5414-7913 E-mail:jpta@i.bekkoame.ne.jp) へお問合せ下さい。

会費に関する問合せ 沖縄県理学療法士協会財務担当理事:運天智子 E-mail:optazaimu@gmail.com

【休会期間に関するお知らせ】

今年度より平成24年度より休会期間が1年間となり、休会の手続きは毎年必要となっております。平成25年3月末までに休会継続の手続きがお済でない方は退会扱いとなります。この度、制度周知が十分でないことから多くの会員が退会扱いとされる見込みです。その対策として先日の日本理学療法士協会理事会で休会期間経過退会扱いを1年延期することになりました。

沖縄県の会員は21名の方が対象となっており、手続きがなければ退会扱いとなりますのでご周知くださいますようお願いいたします。

会員手続き方法がWEBのみになります。

【紙申請廃止への経緯】

協会のシステム整備によって、各種申請がWEBから実施できるようになりました。業務の軽減・迅速化、経費の削減のため、紙申請が廃止となります。

【廃止される紙申請の内訳】 入会申請、異動申請、休会申請、退会申請、復会申請

【紙申請廃止日】 平成25年12月末日

【廃止日以降の対応について】

廃止日(平成25年12月)以降、webの環境がないなど、紙面申請しかできない会員の対応については、日本理学療法士協会事務局へご連絡いただき、協会から用紙を個別にお送りします。

沖縄県理学療法士協会スケジュール 2013年12月・平成26年1月・2月

<u>12月</u>	1日(日)	第4回沖縄理学療法講習会・石垣市健康福祉まつり
	15日(日)	組織運営協議会(日本理学療法士協会)
<u>1月</u>	12日(日)	第5回沖縄県理学療法講習会
	23日(木)	介護予防従事者研修会(沖縄県理学療法士協会主催)
	30日(木)	沖縄県歯科SUN会議大会
<u>2月</u>	2日(日)	訪問リハ実務者研修会(勝山病院)
	9日(日)	訪問リハ実務者研修会(大浜第二病院)

教育学術局便り(研修部)

第5回 沖縄理学療法講習会 スポーツ 理学療法のスペシャリスト☆

1995年から甲子園の裏舞台で数多くの選手を支え、高野連による肩・肘の傷害予防の啓蒙活動に携わってきたスポーツ理学療法のスペシャリスト。国際大会の帯同経験も豊富で、治療から予防の分野まで現場で求められる知識を学ぼう!

講師:小柳磨毅(大阪電気通信大学 医療福祉工学部 理学療法学科 教授)

テーマ:「スポーツ傷害の理学療法 ～治療と予防～」

日時:平成26年01月12日(日) オリエンテーション 9:20～ 開演 10:00～13:00

会場:沖縄リハビリテーション福祉学院 5F 視聴覚室(定員100名) ※定員に達し次第締切り致します

締切:12月29日(日)迄

備考:生涯学習システム「単位読替えテーマ」と「ポイント」

・新人教育プログラム未修了者 →読替えテーマ:C-2 運動器疾患の理学療法

・新人教育プログラム修了者 →10ポイント

【著書】

肩のリハビリテーションの科学的基礎(NAP) ストレッチングアスリートケアマニュアル(文光堂)

実践PTノート運動器傷害の理学療法(三輪書店) スポーツ傷害の理学療法(三輪書店)

【帯同経歴】

1988年 ユニバーシアード夏季大会(ザグレブ) 日本選手団 理学療法士

1990年 アジア大会(北京) 日本選手団理学療法士

1992年 アルベールビル冬季五輪 日本選手団理学療法士 他国際大会帯同多数

■ ■ 沖縄理学療法講習会に関する説明事項 ■ ■

1. 理学療法士を含む医療従事者を対象とした講習会です。
2. 生涯学習システムの「単位読替え」や「ポイント付与」が認定された講習会です。
※「日本糖尿病療養指導士の認定更新のための研修会」として認定された講習会です。
3. 講習会への参加を希望される方は、メールにてお申込みください。



【宛先】 ptgaku@gmail.com

【件名】 「第5回 沖縄理学療法講習会 申込み」

【記入事項】 ①会員番号、②氏名、③所属名、④メールアドレス、⑤職種(PT以外の職種)

※④携帯からの申込みは、個人設定により受信されない場合がありますのでご遠慮下さい。

※⑤理学療法士以外の職種の方のみ、ご記入ください。

4. お申込み頂いた後に、担当者から受講可否の連絡を差し上げます。締切日までに連絡がない場合は、メールにてお問い合わせください。

【問合せ先】 与那原中央病院リハビリテーション科(研修担当:平山良樹)

TEL:098-945-8101/FAX:098-945-8106

5. 講習会へ参加される場合、「会員証」をお持ちいただくと受付の手続きが簡単になります。

6. 受講費は、会員2,000円、非会員3,000円です。

※両替作業の削減及び手続き時間の短縮化を図るため、「お釣りが無いように! 準備をお願いします。」

7. 受付は、オリエンテーション後に行います。オリエンテーションの時間までに来場して頂けることで、受付・会計作業が円滑に行えます。ご理解とご協力をお願いします。

8. 生涯学習に関する質問やお問い合わせは、休憩時間にお願いします。

質問内容は、「問い合わせ書」に記入して提出してください。後日ご返答いたします。

※「問い合わせ書」→沖縄県理学療法士協会ホームページ(会員の方のみ)

9. 諸事情により退室する場合は、係に了解を得て下さい。

沖縄県理学療法士協会 主催 研修・講習会

通所リハ情報交換会のお知らせ

テーマ: ケーススタディと情報交換会

内容: 12月の通所リハ情報交換会では10月に引き続き「肺炎を繰り返す利用者への取り組みと今後の課題」という事例でケーススタディを実施します。ケーススタディ終了後は、フリートークという形式で、通所リハビリの情報交換会を行います。

日時: 平成25年12月10日(火) 19:00~21:00

場所: 友愛園 通所リハビリ室 ※駐車場は豊見城中央病院または友愛園をご利用ください。

主催: 沖縄県理学療法士協会 通所リハ推進部 参加費: 無料

*通所リハに興味のある方、実務されている方の多数のご参加をお待ちしております。

【申し込み方法】下記の内容を記載の上、メールにてお申し込みください。

①氏名 ②所属先 ③職種 ④臨床経験年数 ⑤通所リハビリ経験年数 ⑥会員or非会員

申し込み先: oki.tsuushoriha@gmail.com

※今回より申し込み先アドレスを変更していますので、注意してください!!

問い合わせ先: 宜野湾記念病院 理学療法士 松並健治苑 TEL: 098(893)2101

締め切り: 平成25年12月10日(火) 午前中

*当日お聞きしたい質問等があれば事前申し込みの際に記載してください。

訪問リハビリテーション推進部 勉強会のお知らせ

今回、下記の日程で勉強会を開催いたします。参加を希望される方は下記の方法で申し込み頂きますようご案内申し上げます。

【開催概要】

テーマ: 訪問STの仕事ってどんなことをしているの?

講師: 大浜第二病院 訪問リハビリ 言語聴覚士 野原ゆう子氏

日時: 平成25年12月18日(第3水) 19時00分~21時00分

場所: 大浜第二病院 おもととよみの杜 2F ふれあいホール

沖縄県豊見城市渡嘉敷150番地 電話: 098-851-0100 (代)

対象: 在宅でのリハビリに実務している方・興味のある方・ケアマネ・訪看・ヘルパーさんなど

参加費: 無料 *理学療法士で県士会費未納の方については500円徴収します。

作業療法士会地域連携リハ研究会・沖縄県言語聴覚士訪問リハ委員会と共同開催します

今回の勉強会では訪問STを招きます。内容としては、訪問STの実際、訪問PTやOT、訪問看護や訪問介護、デ

イケアやデイサービス、回復期リハ部門など他職種・他事業所との協働も含めた講義と参加者とのディスカッションを予定しています。この機会に訪問STの野原氏にいろいろ教えて頂きながら楽しく学んでみませんか。訪問リハビリに限らず、在宅生活の支援に関わる皆様との情報の共有も目的としております。会場でお会いできる事を楽しみにしています。

【申し込み方法と問い合わせ先】

下記の内容を記載の上、メールにてお申し込み下さい

①氏名 ②所属と事業所の所在市町村 ③職種 ④県士会 会員・非会員

メールでの申し込み・問い合わせ houmonreha58@gmail.com

申し込み〆切：当日13時まで（資料・会場準備のため）

訪問リハ推進部 部長 桑江睦子（大道中央病院 訪問リハビリテーション）

他団体主催 研修・講習会

沖縄物理医学研究会研修会のご案内

【主催】沖縄物理医学研究会

【日時】平成25年12月14日（土）09：30～16：30（09：00受付開始）

12月15日（日）09：00～12：30（08：30受付開始）

【場所】沖縄リハビリテーション福祉学院 6F

【内容】「運動療法（予定）とSJF技術」

障害に対する考え方（講義）、治療的検査法、関節内運動機能障害に対する治療技術

「関節ファシリテーション（SJF）技術」

呼吸障害、拘縮治療に対する技術、臨床におけるSJF使用方法の紹介を講義と実技を合わせて行います。

※今回は、補助講師として学会理事、支部長、総勢27名が参加します。臨床で治療効果が出せず悩んでいる方、SJF技術に対して懐疑的な方、是非一度SJF技術を体験し、見て下さい。臨床で問題解決の糸口になるかもしれません。関節とついていますがこの技術は全ての障害に使用できる技術になります。

【講師】主講師：宇都宮初夫先生（JM研究所 所長 SJF学会理事長）補助講師：SJF学会理事、各支部支部長

【受講料】SJF会員5000円、非会員6000円（土）のみ4000円、（日）のみ3000円

【問合わせ】沖縄PM研究会事務局 北城整形外科 PT 渡久地 TEL（098）930-7777

【申し込み】okinawapmr@yahoo.co.jpまで以下の項目を入力しお申し込み下さい。3日以内に返信を行います。迷惑メールに入ることもありますのでご確認下さい。

①氏名②性別③施設名④職種⑤免許取得年⑥常時連絡が取れる番号（携帯番号）⑦懇親会参加の有無

第7回沖縄ブロック活動分析研究大会のご案内

日時：平成26年1月12日（日） 8：30～17：30 テーマ：「Activity・Handling」

講師：北山哲也 先生 山梨リハビリテーション病院 理学療法士

会場：大浜第二病院 2階ふれあいホール（住所：豊見城市渡嘉敷150）

主催：沖縄ブロック活動分析研究会 対象：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医師

内容：一般演題（VTR発表）、ポスター演題（発表・実技体験）、特別講演「Activity・Handling」

定員：100名 受講費：3,500円

受講申込み締切り：平成25年12月21日（土）

受講申込み方法：次の内容を明記の上、下記アドレスまでメールにて申し込みください。

E-mail: o_taikai@yahoo.co.jp（沖縄ブロック大会事務局）

記入内容：①氏名 ②所属 ③経験年数 ④懇親会参加 ⑤連絡先

※施設ごとの申し込みの際は代表者の氏名、連絡先（メール可）を記載ください。

※申し込み後、3日以内にメールにて受付受理、受講費振込先のご連絡をいたします。連絡がない場合は下記に問合せください。

<問い合わせ・申し込み先>医療法人おもと会 大浜第一病院 リハビリテーション科

沖縄ブロック活動分析研究大会事務局 作業療法士 松原良憲 吉嶺浩 新里光

住所：那覇市天久1000 TEL:098(866)5171 FAX:098(864)1874 E-mail: o_taikai@yahoo.co.jp

第1回 Evangeriseセミナー 「運動器 革新的推論」

日程：平成26年1月12日（日） 10：00～16：00

「手関節・手指における革新的推論」イベントクリエーション

「下肢における革新的推論」九州医療スポーツクリニック

「体幹における革新的推論」福岡志恩病院

MAHALO 代表 大川尊規 先生（OT）

副院長 田中創 先生（PT）

部長 多々良大輔 先生（PT）

会場：嘉手納町中央公民館 大ホール 定員：100名

受講費：2,000円 対象：PT・OT

【申し込み方法】

①氏名（ふりがな）、②所属施設、③職種、④経験年数、⑤メールアドレス(PCアドレスのみ)を明記の上、件名に「1月12日研修会申し込み」と記載をお願いします。参加の可否をメールにて1週間以内にご返信致します。電話での問い合わせには対応しておりませんので、下記メールアドレス宛にお申し込み、ご質問をお願いします。

申込先E-mail：evangerise@gmail.com

主催：Evangerise

代表：名護零

整形外科 よざクリニックリハ室 研修会

テーマ：「たわみ理論」で捉えるヒトの動作特性

講師：安里 和也 セラ・ラボ（取締役） 理学療法士

内容：膝痛や腰痛など痛みを呈する症状に対して、セラピーを展開する際、一つの考え方として、メカニカルストレスからの展開があります。メカニカルストレスを捉える上で主流な考え方として剛体モデルがあり、相対するモデルとして弾性体モデルがあります。

日々の臨床場面でクライアントと真摯に向き合う中で、弾性体モデルを背景にテンセグリティ理論を独自に発展させた「たわみ理論」を提唱しました。今回の講習会では、「たわみ理論」でのストレスメカニズムの提言から実技を交え、その考え方をお伝えします。

日時：平成26年2月22日(土)14：30～18：30(4時間) 23日(日)10：00～12：00、13：00～15：00(4時間)

場所：整形外科 よざクリニック 受講料：6000円（1日のみの参加：3500円）

定員：30名 定員なり次第締め切り致します。

申し込み多数の場合は、2日間参加可能の方を優先させていただきます。

申し込み方法：下記メールアドレスまでお申し込み下さい。

メールアドレス：yoza.riha@gmail.com

件名：たわみ理論講習会 本文：①氏名②所属③経験年数

問い合わせ：整形外科よざクリニック 理学療法士 川端哲弥

平成25年度成人片麻痺における環境適応講習会<in 沖縄>

日時：平成26年2月21日19:00～21:00、2月22日9:00～18:00、2月23日9:00～18:00

テーマ：『Activity（講義&実技）』

講師：柏塾 塾長 作業療法士 柏木 正好

介護老人保健施設舞風台 作業療法士 永田 誠一・大浜第二病院 作業療法士 新里 順治

会場：大浜第二病院 ふれあいホール・理学療法室（沖縄県豊見城市字渡嘉敷150）

主催：環境適応講習会

対象：理学療法士、作業療法士、言語聴覚士 ※必ず3日間受講できる方のみお申し込み下さい。

定員：100名 内容：講義、実技、デモンストレーション

参加費：12,000円（振込手数料、懇親会費・弁当代別）※振込先は受講可否決定時にご連絡致します。

懇親会：2日目終了後に懇親会を予定しております。是非ご参加下さい。

申込方法：パソコンからのE-mailより、以下の内容を明記の上ご送信下さい。

1.施設名、2.施設住所、3.電話番号、4.氏名、5.職種、6.経験年数、7.環境適応講習会受講の有無、8.Bobathコース受講の有無、9.懇親会参加、10.メールアドレス、11.昼食希望

※詳しくは、環境適応講習会ホームページ <http://www.kanteki.net/> をご覧下さい。

申込締切：平成25年12月中旬

問い合わせ・申し込み先：沖縄環境適応講習会事務局okinawa@kanteki.net(@は半角@に直してご送信下さい。)

〒901-0215 沖縄県豊見城市字渡嘉敷150 TEL098-851-0102

介護老人保健施設はまゆうリハビリテーション科：渡慶次裕治

【平成25年度 沖リハ同窓会勉強会】

小勉強会① [テーマ] スポーツ領域における理学療法～スポーツを理学療法から考える～

[講師] 新垣 貴大 先生 [日時] 平成25年12月8日(日) 18:30～(受付：18:00～)

[会場] 沖縄リハビリテーションセンター病院 [定員] 40名 [対象] 医療従事者

[受講費] 同窓生800円(会費納入済み者)、同窓生外1,000円

[申込み] 平成25年11月1日(金)～12月8日(日)まで※実技があるため動ける服装にて参加をお願いします

小勉強会② [テーマ] 変形性膝関節症について

[講師] 宜保 幹雄 先生 [日時] 平成25年12月13日(金) 19:00～(受付：18:30～)

[会場] 沖縄リハビリテーションセンター病院 [定員] 40名 [対象] 医療従事者

[受講費] 同窓生300円（会費納入済み者）、同窓生外500円

[申込み] 平成25年11月1日（金）～12月13日（金）まで

[申込方法] メールでの申し込みとなります。

宛先：okireha.dousoukai@gmail.com 件名：「①小勉強会」「②小勉強会」

内容：①氏名、②所属、③同窓生（卒業期）or同窓生外

[問合せ先] 沖縄リハ同窓会学術部：座安 真理（与那原中央病院） 問合せ先：okireha.dousoukai@gmail.com

[お願い] 受付時の混雑予防の為、必ず事前申込みの上ご参加下さいますようお願いいたします。

広報部便り

本誌へ研修会案内の掲載をご希望の場合は、当会HPより「広報誌掲載申込書」をダウンロードし、申込書へ必要事項を記入後、当協会事務局まで郵送して頂きますようお願いいたします。尚、掲載の可否については当会の事業目的に照らし、判断いたします。尚、毎月10日締切で翌月号への掲載となります。

[沖縄県理学療法士協会HP:<http://www.oki-pt.jp>]

★掲載内容は概ね300字を目安としています。これまで掲載されていた研修も文書の発行をお願い致します。

【研修案内に関する問い合わせ】

沖縄県理学療法士協会事務局

098-930-5023(月～金曜日9:00～18:00 担当:比嘉)

optaoffice@oki-pt.jp

理学療法士・作業療法士募集

勤務時間：8：30～17：30

給 与：月給230,000～
250,000で調整。
経験者優遇。

休 日：週休2日制（日曜日定休日）
年末年始

待 遇：賞与年2回、社保完備、
交通費支給、制服貸与、
資格手当、有給休暇（入
社6ヶ月以降～）

応募方法：電話にてご連絡下さい。
施設案内、面接日を調整いたします。
(担当：ストローター)

(合) サンライズグループ
シニアデイサービスセンター

沖縄県うるま市石川東恩納1508番地1

TEL:098-923-2741